アンバサダーライダー・髙田茉莉亜と佐々紫苑の

# 欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2021 年 8 月号掲載

## 馬心伝心
### －奮闘記partⅡ－

佐々紫苑
*Shion Sassa*

日本中央競馬会所属

**◆佐々紫苑**
（さっさ・しおん）
1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。


戸本一真選手（JRA）が、89年前の障害馬術選手バロン西以来の個人入賞となる、総合馬術個人4位という成績を収めた歴史的オリンピックが幕を閉じました。大勢のボランティアやサポーターの方々のご協力を受け、無観客ではありましたが、素晴らしい大会になりました。世田谷の馬事公苑には世界各国から有名なトップ選手たちが続々と集まり、同じ敷地内に自分も立っていると思うだけでも感動でした。

私は全競技を通じてMix－Zoneという、出番を終えた選手と国内外のメディアをつなぐ場所にいました。今回の大会で通算8大会目の五輪参加、総獲得メダル数6個という快挙を成し遂げたオーストラリア総合馬術界のレジェンド、御年62歳のAndrew Hoy選手はその走りもさることながら立ち居振る舞いもとても紳士的でした。また、タイから来た選手たちはみんな気さくで楽しく、メキシコチームの関係者はソンブレロをかぶっておどけたりと、表舞台では見られない各国選手の表情を垣間見ることができました。

(上)消毒しながら国際交流！カタカナのドイツとオランダの木靴がお気に入りです（本人提供）(下)子供たちからのメッセージ。かわいくて元気が出ます（©日本馬術連盟）

会場入り口付近一帯にはたくさんの朝顔の鉢植えが並べられ、会場入りした選手を出迎えてくれました。これは近隣の小学生が一鉢一鉢に選手たちへのメッセージを添えて用意してくれたもので、中にはフランス語や英語で書かれたものもありました。隅々まで温かいおもてなしを感じたすてきな大会の楽しいエピソードは、また次回お話ししたいと思います。

## Let's enjoy Dressage

髙田茉莉亜
*Maria Takada*

アイリッシュアラン乗馬学校所属

**◆髙田茉莉亜**
（たかだ・まりあ）
1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。


東京オリンピックが閉幕！ 馬術競技は世田谷区のJRA馬事公苑と、江東区の海の森クロスカントリーコースで開催されました。

出国前検疫を経て、飛行機で運ばれてきた競技馬の合計はなんと247頭！ 世界中のトップライダーとスーパーホースが東京に集結しました。もうそれだけで鳥肌が止まらなかったのは私だけではないはず…。

馬場馬術は、団体兼個人予選（グランプリ規定演技）、団体決勝（グランプリスペシャル規定演技）、個人決勝（グランプリ自由演技）の3競技が行われました。今回のオリンピックから団体戦のルールが変わり、1カ国から参加できる人馬が4人馬から3人馬となりました。以前は、4人馬中成績の良い3人馬のスコアで順位が決まっていたのに対して、今回からは全3人馬の成績で順位が決まることに。

選手だけではなく、馬も表彰式に参加します！（©日本馬術連盟）

誰も失敗できないという想像以上のプレッシャーの中、女性選手3人でチームを組んだ強豪ドイツが圧倒的な強さで金メダルを獲得！ 次に、アメリカが前評判以上にスコアを伸ばし銀メダルを獲得し、イギリスとデンマークの銅メダル争いでは、イギリスに軍配が上がりました。次回は個人戦について触れたいと思います。